

平成30年度主要施策の成果のあらまし

区は、大田区基本構想で掲げた将来像「地域力が区民の暮らしを支え、未来へ躍動する国際都市 おおた」を実現するため、平成26年3月に「おおた未来プラン10年（後期）」を策定し、「地域力」と「国際都市」をキーワードに、子育て、保健・福祉、まちづくり、産業振興、地域力、環境など、あらゆる分野の施策を推進しています。ここでは、これらの主要施策の平成30年度の取り組み内容のまとめをご案内するとともに、特に主要な事業について、いくつかその実施状況をご紹介します。

1 「おおた未来プラン10年（後期）」における個別目標ごとの事業費（平成30年度決算額）等のまとめ

個別目標	主要施策数 (主な事業数)	取り組みの数	事業費 (平成30年度決算額)	未来プランに掲載されている 事業分(再掲)
1-1 未来を拓き地域を担う子どもを、みんなで育むまちにします	31	79	44,624,194千円	43,262,235千円
1-2 誰もが自分らしく、健康で生きがいをもって暮らせるまちをつくります	27	69	5,583,541千円	4,016,206千円
1-3 高齢者が住み慣れた地域で、安心して暮らせるまちをつくります	11	31	2,858,592千円	1,871,615千円
2-1 水と緑を大切にし、すべての人に安全で潤いのある暮らしを実現します	25	69	7,857,023千円	7,620,040千円
2-2 首都空港『羽田』と臨海部が世界への扉を開く、国際交流拠点都市を創ります	13	20	17,465,737千円	17,465,737千円
2-3 ものづくりから未来へ、独自の産業と都市文化を創造します	20	46	1,416,954千円	1,278,375千円
3-1 地域力を活かし、人に優しいまちを区民主体で実現します	35	67	546,218千円	542,485千円
3-2 私たち区民が、良好な環境と経済活動が両立する持続可能なまちをつくる担い手です	10	19	2,641,324千円	2,641,324千円
3-3 区は、効率的で活力ある区政を実現し、地域との連携・協働を進めます	10	30	6,758,394千円	6,758,394千円
合計	182	430	89,751,977千円	85,456,411千円

※事業費については、個々の事業ごとに決算額を千円未満四捨五入し、集計しています。

【参考】
未来プラン10年（平成29年度）
主要施策数（主な事業数）：182
取り組みの数：429

2 主要な事業の実施状況

●個別目標 1-1

未来を拓き地域を担う子どもを、みんなで育むまちにします

待機児童解消のために保育サービス基盤の拡充に努め、新たに私立認可保育園や認証保育所等26の保育施設を整備し、保育サービス定員を1,458人拡充しました。この結果、未来プラン（後期）5年間における保育サービス定員は4,965人増加しました。

良好な教育環境を確保するため、学校施設の整備を実施しました。すでに設計や工事に着手していた10校に加え、新たに矢口西小学校、安方中学校の改築に着手し、全12校の整備を進めました。



志茂田小学校 新校舎写真

●個別目標 1-2

誰もが自分らしく、健康で生きがいをもって暮らせるまちをつくります

障がい者総合サポートセンター（さぼーとびあ）では、地域生活支援拠点としての機能拡充に向けて増築工事を行い、医療的ケアを必要とする方を含む重症心身障がい児・者等を対象とした短期入所事業と、学齢期の発達障がい児に対する相談・診察から療育までの支援事業を行うB棟を開設しました。

機能更新に伴う六郷図書館の改築工事が完了しました。新しい六郷図書館では、各階にだれでもトイレを設置し、授乳室、対面朗読室を設けるなど、誰もが親しみやすく、利用しやすい地域の情報拠点として、また子どもから高齢者まで全ての区民の学びの場として整備しました。



障がい者総合サポートセンター（さぼーとびあ）外観



放課後等テイルーム内の様子

●個別目標 1-3

高齢者が住み慣れた地域で、安心して暮らせるまちをつくります

大田区元気シニア・プロジェクトでは、「シニアの健康長寿に向けた実態調査」の追跡調査を実施し、その結果をまとめた「実施報告書」を作成しました。平成28年度から3年間の成果を報告するとともに、今後のフレイル予防事業のため、大田区オリジナルのフレイル予防グッズを作成しました。

在宅生活が困難になった高齢者の住まいとなる介護施設等の整備を促進するため、民間事業者による施設整備を支援しました。新たに特別養護老人ホーム「ケアホーム千鳥」（定員84人）及び認知症高齢者グループホーム「ツクイ大田多摩川グループホーム」（定員18人）を開設しました。



元気シニア・プロジェクト モデル地区でのボールウォーキング実施の様子

●個別目標 2-1

水と緑を大切に、すべての人に安全で潤いのある暮らしを実現します

歩行者・自転車・自動車の夜間における視認性を向上し、交通の安全を高めるとともに、省エネルギー、維持管理コストの低減を図るため、平成 26 年度から平成 30 年度までの5年間で街路灯 24,132 灯のLED化を完了しました。

池上駅周辺の歩行者空間及び本門寺参道の景観について検討を行うとともに、まちづくり協議会からの意見や課題等を整理し、より魅力的で、より良いまちの形成に向けた指針として「池上地区まちづくりランドデザイン」を策定しました。



「池上地区まちづくりランドデザイン」



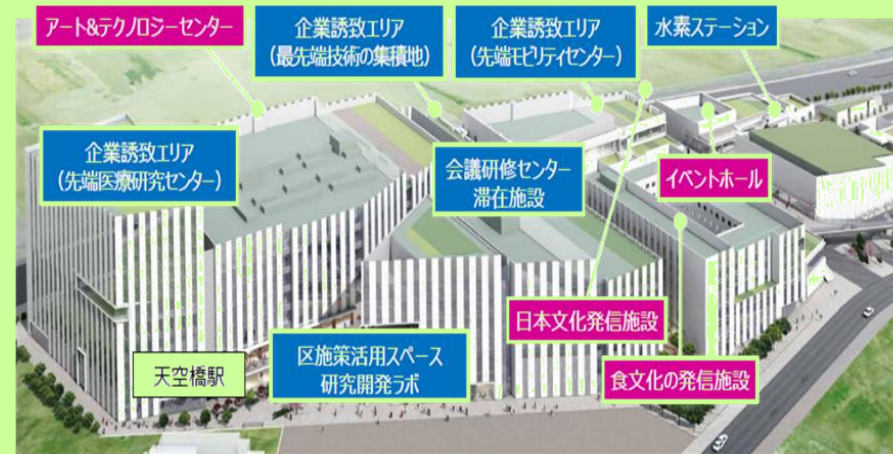
景観整備のイメージ

●個別目標 2-2

首都空港『羽田』と臨海部が世界への扉を開く、国際交流拠点都市を創ります

新産業創造・発信拠点の形成に向けた「羽田空港跡地第 1 ゾーン整備事業(第一期事業)」について、大田区と整備・運営事業者が事業契約を締結しました。また、10 月末に起工式が執り行われ、2020 年のまち開きに向けまちづくりが始動しました。

第2ゾーン多摩川親水緑地は、平成 31 年度4月の開園に向けた各種手続きや工事を進めました。また、名称を公募した結果、区内外から多数の応募があり、「ソラムナード羽田緑地」に決定しました。



「羽田空港跡地第 1 ゾーン整備事業 (第一期事業)」イメージ

●個別目標 2-3

ものづくりから未来へ、独自の産業と都市文化を創造します

大田区製造業の特徴である「仲間まわし」ネットワークを維持・発展させ、価値創出型のものづくりを実現するため、IoT活用の実証実験を進めるとともに、コンソーシアム機能を持つ合同会社の設立を支援し、区内製造業の取引環境整備を進めました。

中小企業の新たなネットワーク形成による新事業展開を促進するため、共同して開発・生産・販路開拓等を行う活動や産業クラスターの形成・創出に資する活動に対して助成を行うとともに、区内関係団体と連携したPR活動を実施しました。



おおた工業フェアに出展した合同会社のブース

●個別目標 3-1

地域力を活かし、人に優しいまちを区民主体で実現します

東松島市への支援の際、被災地支援ボランティア調整センターの運営委託者であった事業者と、(福)大田区社会福祉協議会及び区の3者間で「災害時におけるボランティア活動等に関する協定」を締結し、大規模災害発生時におけるボランティア活動が円滑に行えるよう、連携・協力体制を構築しました。

高齢者の振り込み詐欺等の被害を防止するため警察と連携し、自動通話録音機の申請受付を区内4警察署のほか、防災危機管理課の計5か所で行い、約 2,800 台を貸与しました。



自動通話録音機

●個別目標 3-2

私たち区民が、良好な環境と経済活動が両立する持続可能なまちをつくる担い手です

低炭素社会の実現に向けて、羽田地域力推進センター、羽田四丁目複合施設、大森第四小学校、六郷図書館の改築において、太陽光発電設備を設置しました。

不燃ごみに含まれる水銀含有物の適正処理及び小型家電等の資源物のピックアップ回収を、区全域に拡大して実施しました。粗大ごみのピックアップ回収では、継続して小型家電等の有用金属や羽毛布団の再資源化を実施しました。



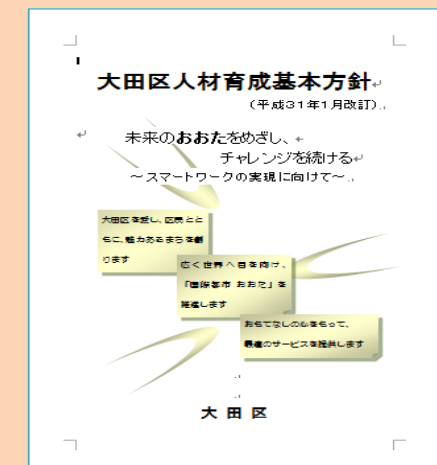
羽田四丁目複合施設外観

●個別目標 3-3

区は、効率的で活力ある区政を実現し、地域との連携・協働を進めます

限りある行政資源を有効に活用し、高度化・複雑化する区政課題に対応するため、職員の人材育成の重要性が増していることから、人材育成を更に推進し、区民サービスの向上、組織力の強化を図るため「大田区人材育成基本方針」を改訂しました。

機能更新に伴う施設の改築・改修を進め、区民サービスの向上を図るために蒲田西特別出張所を大田都税事務所に仮移転しました。また、地域力の拠点として建設を予定している(仮称)都区合同庁舎建設について、基本設計に着手しました。



「大田区人材育成基本方針」(平成 31 年3月改訂)